

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実をとらして、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業づくりをすすめる。 ・ことばを育て、教科の特質に応じた言語活動の充実を通して、思考力を育む授業づくりをすすめる。 ・道徳教育を中心として、豊かな心を育成するとともに、体育を中心として体力の向上を図り、心身ともに健康な児童の育成に努める。

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの活用や、家庭学習の定着、ノート指導を図ることによって、基礎的・基本的な知識・技能の定着により学習意欲の向上を図る。 ・発表やディスカッションなど、考えたり、表現したりする場面を多く設定するなどを行い、言語活動の充実を図る。 ・めあての提示から授業展開や学習集団の工夫、まとめ・振り返りまで、45分間を生かし切る授業を行う。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を活かした授業展開や、個別支援の工夫を行うことで、基礎的な力を定着させる。 ○一人一人が意欲的に学習できるようにめあてを明確にし、児童自身が単元の流れをとらえられるようにする。 ○慣用語やことわざ、類義語・対義語といった言葉や現象などを調べる活動を通して、語彙力や興味を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発声や奏法等の基礎を身に付け、思いや意図をもって創意工夫し、豊かな表現ができるような支援をする。 ○授業や校内外の発表の場を通し、互いに高め合い、協調しながら音楽を楽しもうとする心情を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科と関連付け日本の伝統文化に触れる体験活動(藍染、茶道、和楽器、むかしあそびなど)を取り入れ、日本文化のよさや楽しさを味わわせ、理解を深める。 ○chrombookを活用して情報を収集、整理、発信する等、主体的に学習できるようにする。 ○レガシー教育を行う中で、障がいや人種の多様性を認め、助け合う心情を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己を振り返る時間を保障する授業展開をくふうする。 ○児童一人一人が、内容項目を深く掘り下げて考えたいと思える発問を工夫する。 ○いじめ未然防止、早期対応につなげるためにいじめに関する授業を計画的に実施する。
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象に対して疑問をもてるような資料準備や、提示の仕方を工夫をすることで、主体的に問いを追求できるようにする。 ○調査活動や地図帳、各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べ、まとめられるようにする。 ○事象の整理にICT機器や思考ツールなどを活用し、社会的事象への深い理解につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○造形活動を楽しむとともに、よりよい作品をつくらうとする意欲を育てる。 ○作品の鑑賞や創作過程で、お互いの頑張りやよさを認め合い、伝え合うようにしていく。 		
	算数科	家庭科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックドリル・学習支援コンテンツ等を活用し、計算力をはじめとした基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。 ○問題解決学習を通して、問題提示の工夫や話し合い活動を充実させ、思考力、判断力、表現力とともに、意欲向上を図る。 ○分かったことや考えたことの振り返りをする中で、主体的に学ぶ姿勢を高める。 ○デジタルコンテンツを活用して、学習理解を深めるとともに、プログラミング教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調理や裁縫の実習を多く設けることにより、実生活に結び付く力を育てる。 ○裁縫の学習においては、実生活に活用できるような作品作りを心がけ、日常生活に活かしていけるようにする。 ○「住」においては、清掃や換気の仕方などを日常生活から健康や安全を意識して過ごせるよう、継続的に行っていく。 		
	理科	体育科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○児童同士の交流を通して、予想を伝え合ったり、結果から考えられることの見聞交換をしたりする機会をつくり、すすんで問題解決できるようにする。 ○実験・観察の機会を多く設けることにより、誰もが器具の操作を確実に行うことができるようにする。 ○課題の把握、課題の探究、課題の解決という探究の過程をノート指導や掲示などで身に付けさせ、自ら課題設定できるようにすることで、問題解決の能力を育成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な動きをつくる運動や体の動きを高める運動、固定施設を使った運動などに年間を通して取り組ませることにより、運動や遊びの日常化につなげる。 ○運動量を十分に確保し、体力の維持・向上を図る。 ○場や教具を工夫して段階的に取り組めるようにし、自分に合った場を選択したり、友達と学び合ったりできるようにしていく。 		
生活科	外国語科(5・6年生)			
<ul style="list-style-type: none"> ○人・もの・自然にすすんで関わる学習活動を展開できるようにする。 ○活動の中で、児童の創意工夫や気づきをふくらませ、日常生活につなげていく。 ○学習成果を発表する場を設け、自分のよさや友達のよさに気づくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えを伝え合う。 ○外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図る。 			

ICT機器の活用	見通しをもたせる導入	振り返りの設定
<ul style="list-style-type: none"> ○大型提示装置を活用し、プロジェクターに教材やデジタル教科書等を映すようにし、児童が課題を把握できるようにする。 ○chromebookを積極的に活用し、個人の学習の振り返りやグループでの共同編集作業などに取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○導入時に既習内容を振り返り、見通しをもたせる発問の工夫をしていく。 ○知的好奇心をかき立てる言葉の投げかけや、児童の思考に働きかける問いを吟味していく。 ○導入時に単元のゴールを明確にし、学習の見通しをもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの時間も本時のめあてを振り返るようにさせ、学習をまとめさせる。 ○自分の学習状況を理解し、身に付けた力を自己評価させることで、主体的に学ぶ姿勢を伸ばしていく。